

総合型、学校推薦型選抜 コロナで募集延期を検討！

現状は文科相「私案」、今後省内で検討

旺文社 教育情報センター 2020年4月20日

萩生田文部科学大臣は17日の会見で、「私案」段階であることを強調したうえで、今年の総合型選抜、学校推薦型選抜について募集時期を遅らせたい意向を示した。これはまだ決定事項ではなく、これから文科省内で検討がなされる模様だ。

●大臣発言の要旨 ※下線は当方。

入試は各大学が自主的に行うものだが、新型コロナウイルスによる臨時休業が続く中、事態の重大性、緊急性に鑑み、文科省としても受験生を第一に考えた配慮措置が必要と考える。

当面は総合型選抜（9月以降に出願）、学校推薦型選抜（11月以降に出願）において受験生が大きな影響を受けることが予想される。

このため中止、延期となった各種競技大会や文化活動等に参加できなかったことや、出席日数や特別活動等の記録が少ないことをもって、部活動等の諸活動の実績の評価や、調査書において特定の受験生が不利益をこうむることがないように、各大学に配慮してもらいたい点など、高校・大学関係者等と相談をしながら速やかに検討する。

（中略）

私案ではあるが、総合型選抜や学校推薦型選抜の募集の時期を遅らせる必要があるという問題意識を省内当局に伝えたところ。従来どおりのスケジュールで入試を行うことが子どもたちにとって、学校にとっていいことなのか。

例えば仮に（強調）、スポーツの全国大会ができないとすると、スポーツ推薦の学部で全国大会出場などが出願要件にされている受験生はいなくなる可能性がある。それを2年生の実績で判断するとなると、2年生でレギュラーだった生徒はごく少数だ。

この状況が収束したあとで、予定されていた大会は後にずらしてでも開催を積極的にしてもらいたい。しかし仮に（強調）そういう評価がしづらい環境になったとしても、その大会に出るまでの能力があったかどうかについては、県単位では判断がつくと思われる。大学には調査書だけではなく面接を加えるなどして、こうした点を丁寧に評価してもらいたい。

今回の 2021 年新入試から、出願開始時期は以下のようになる。

- ・旧 AO 入試(8 月以降) ⇒ 総合型選抜(9 月以降)
- ・旧推薦入試(11 月以降) ⇒ 学校推薦型選抜(現状ママ)

毎年、各大学は入試方法等について 7 月末までに発表することとされている。しかし特に私立大では、6 月上旬に入試ガイドが完成している大学もあり、すでに入試日程が決定している大学も多い。

今の段階で大学に日程の見直しを求めるのは非常に難しいだろう。しかし今年の「3 年の 1 学期」が異常事態であることは確かで、むしろ日程というより、出願資格を含めた選抜内容について、特別な配慮が必要と思われる。

高校では学習評価のつけ方も、これまでどおりにはいかないはずだ。各種資格・検定が出願資格等で課されていても、その受験機会が失われている。学校推薦型では推薦書の中で「学力の 3 要素」の評価が必須化されるが、授業がない中で高校が主体性の評価などをするのは難しい。調査書は「指導上参考となる諸事項」が細分化され、より具体的な記述が可能になるが、課外活動などはそもそもできていない。オープンキャンパスも軒並み中止となっている。

なお文科省によれば、有識者による検討会を設ける形ではなく、大臣の発言のとおり、高校、大学等の関係者の意見を聞きながら省内で検討していく模様だ。

2021 年新入試は、一般選抜回避と、ここ数年の定員超過率の厳格化により、多くの受験生が総合型、学校推薦型に流れることが予想される。

一方、大学側は成績提供システムが見送りになり、共通テスト記述式が見送りになり、再びここで総合型、学校推薦型を見直せとなると、再三の見直しを求められることになる。

新入試初年度は、受験生、高校、大学にとって非常に困難な年となる。国と大学の早急かつ、わかりやすい対応を期待したい。